

3月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城 武夫

今月のテーマ

小児科医からお母さん、お父さんへのメッセージ

4月から始まったHUGだよりも今回で2年目の最終回を迎えました。小児科医として、お母さん、お父さんにお伝えしたいことを考えてみました。

今年はコロナ禍で生活が大変かわりました。子どもの病気も手足口病、インフルエンザをはじめ多くの感染症は少なくなり、新型コロナも三重県では子供の報告は少なく重症例もありません。しかし、世界ではその感染者数は1億9百万人、死者数は240万人、日本では感染者数39万人、死者は13,700人近くになっています。後遺症で苦しむ人々も多くみられます。感染症はうつらない、うつさないが重要です。そのためには、正しい3密回避、正しい手洗い、正しいうがい、正しいマスクの着用が重要です。

また、コロナ禍のステイホームで子どもたちも「オンライン授業」や「買い物やゲームを中心としたインターネットの利用」などでネット依存が問題になってきました。それに対処するには、教育現場や家庭でのメディア・リテラシーが大切になります。即ち、情報の本質を見抜く力を養う、鵜呑みにしない、発信源（者）を確かめる、自分にとって何が大切か比較し判断し、依存しないインターネット・SNSの利用を親子で話し合い、ルールを決め、親子で守ることを考える機会を持つことです。

最後に、私は子育てには、特に小さい間は、コロナ禍では非接触が推奨されますが、お父さん、お母さんの五感をフルに活動していただきたいのです。「乳児は肌を離すな 幼児は肌を離しても手を離すな 学童生徒は手を離しても目を離すな、思春期は目を離しても心（ここでの心は対話）を離すな」をお父さん、お母さんへのメッセージとさせていただきます。



追加のお願い

コロナ禍でも、予防接種で予防できる病気には積極的に予防接種を受けましょう。

コロナの予防接種も始まります。予防接種が出来ない16歳未満の子どもたちを守るにも、大人たちが接種して集団免疫を作りましょう。ワクチンの正確な情報を学び、疑問があればかかりつけ医の先生、県、市町の相談窓口にたずねましょう。

